



## 修行体験をしました

7月26日(水)、上山田育成会と上山田公民館が主催で「お寺で過ごそう一日修行体験」を上山田新山地区にある見性寺で開催しました。

坐禅・書写・講話・心の道場など約40名の児童が参加し、いつもの生活ではできないことをたくさん経験しました。

## 《主な掲載記事》

- 特集 夏休みの思い出…………… 2～3
- 夏山ハイキング…………… 4～5
- サークル紹介・わがまちの自慢… 6
- リレーエッセイ…………… 7
- もっと知りたいふるさと…………… 8  
(桑原地区)

**特集** 夏休みの思い出

特集

# 夏休みの思い出

## 楽しかった マイサファリパーク作り

東小学校6年 林 明里

私は、8月3日(木)に行われた「マイサファリパークを作ろう」に参加しました。マイサファリパークとは、アクリルケースに木工粘土を入れ、カラフルな砂や木、石、動物をおいて自分のサファリパークをつくることです。

最初は、妹に頼まれて一緒に行ったので面白いのかなという感じでした。でも実際に見本を見て、どんどん面白そうだなとなりドキドキしてきました。

私が工夫したところは、2つあります。

1つ目は、立体感を出すために大きな木を後ろにやり、小さな花を前にやったことです。

2つ目は、湖の石を光る石にし、湖の水に反射してきれいに光っているようにしたこと。他にはない自分なりのサファリパークができて良かったです。

公民館の行事に参加できて



湖キラキラに工夫しました

良かったです。今年で最後だったのでもちよっと寂しいけど楽しめて良かったです。

## 三滝水生生物教室に参加して

屋代小学校6年 小林陽菜子

千曲市の倉科にある三滝に行きました。倉科三滝の水の中にすむ生き物を調べてみようと思いい水生生物教室に参加しました。

あみを入れ砂利をすくい、その中を見てみたけど生物はいませんでした。でもやっていくうちに、カワゲラやサワガニなどの生物を発見しました。今年も色々な生物を発見できて良かったです。その後

も、今まで見つけられなかったヘビトンボやフタスジモンカゲロウなどを採取することができました。

今回の教室で採取した生物は、きれいな水に生息している生物でした。倉科にある三滝の水はとてもきれいな水だと分かり、うれしくなりました。でも、なかなかハコネサンショウウオを見つけれず悔しくなりました。今度妹が参加するときは絶対にハコネサンショウウオを見つけてほしいです。

これから先も、川の水がきれいな場所であり、色々な生物が何年も生きていけるようにこの倉科にある自然を守っていきたいと思いました。

## 子どもカレッジに参加して

壇生小学校6年 吉原 櫻

8月9日(木)、「壇生子どもカレッジ」に参加しました。「わくわくエコ教室」では、自転車をこいで発電し扇風機の風を出しました。軽くこいただけでも強い風が出て驚きました。

「アイスづくり」は、砂糖と牛乳を混ぜたものを、氷と塩の入った袋の中でシャカシャカふって凍らせました。トッピングにチョコ、クッキー、ブルーベリーなどをのせて、ごろかなアイスになりました。思っていたより簡単に作れたので今度家でも作ろうと思いました。



自分で作ったアイスにトッピング!



カジカガエルをみんなで観察

「風鈴づくり」はペットボトルの容器を再利用して作りました。自由に絵を書いたりシールをはったりして自分だけのオリジナルの風鈴が完成しました。音もきれいで、家族にも喜ばれました。今回の体験を通して、省エネ、エコ活動、リサイクルの大切さなど学ぶことができました。これから日常生活の中でも役立てていきたいと思えます。小学校最後の夏休みの思い出にもなつて、参加してよかったです。

## 夏休み子どもゼミナールの思い出

治田小学校3年 櫻井 知花

わたしは、はじめて夏休み子どもゼミナールに行きました。さいしょは知っている友だちがいるか不安だったけど、たくさんいて、とてもよかったです。

木工教室は、はじめて、くぎをうちました。はじめは、うまくできなかつたけれど、先生はしゃきょうの人で、やさしく教えてくれたので、ぶじかんせいさせることができました。

スイカわりは、うまくぼろがスイカにあたらなかつたけど、ほかの人のおうえんができたのでとてもよかったです。そのあと昼食のデザートにみんなと食べるのができて、とてもうれしかったです。

ポッチャでは、私のチームは3位でくやしかったです。



作り方を真剣に聞いています

でも、とても楽しかったのでも、とても楽しかったです。

カブト虫をほかくする時は、わたしはさわれないので、おじさんがとってくれました。とてもうれしかったです。持ち帰ったカブト虫がたまごをうんでくれたらうれしいです。長生きさせてあげたいです。

治田小学校4年 茂木 大樹

夏休み子どもゼミナールで、マガジンラックをつくったり、スイカわり大会をしたり、ポッチャをやったり、カブト虫をつかまえたりしてとても楽しかったです。

木工体けんでは、くぎ打ちがむずかしかつたけどうまくできてよかったです。スイカわり大会では、みんなが方向を教えてくれたので、スイカにあてられてよかったです。

ポッチャでは、ぼくはDチームになり、3勝1敗で1位になることができました。チームのキャプテンにもなり少しきんちようもしましたがみんなできよう力して、楽しくできたので、1位になれたんだと思います。最後は、カブト虫がしで



イスやマガジンラックが完成!

わたくしは、マガジンラックを、妹はイスを作りました。お母さんは、妹の手伝いをしていたので、わたしはひとりだったけど、教えてくれる先生の話をきちんと聞いてがんばったら、とてもすてきなラックができました。くぎを打つ時に、曲がってしまつてむずかしかつたけど、最後の方は、まっすぐ上手に打つことができました、うれし

初めての親子教室

八幡小学校4年 吉池 花凜

です。大きいから小さいのまでたくさんいました。ぼくは大きいのがつかまえたかったので、がんばってさがしました。オスとメス両方とも大きいのがつかまえることができました。来年も、ぜひたいにさんかしたいです。

心にのこった科学教室

更級小学校4年 塚田 昂成

つたです。木工教室の後は、ポッチャをやりました。わたしは、何度かやったことがあつて、チームで力を合わせて勝つことができましたので、楽しかったです。初めてマガジンラックを自分の力で作ったり、友達とポッチャをやったりして、とても楽しい親子教室でした。また来年もさんかしたいです。

夏休みに戸倉公民館の科学教室に行きました。最初はきちょうして声がでませんでした。先生は、高校生のお兄さんたちでやさしく声をかけてくれたので、とてもうれしくなり、きんちようがきえました。最初のじっけんは「花の色がかわるよ」でした。ぼくは花の色なんか変えられるわけがないと思ひました。まず、むらさきキャベツでそめて花の形にしたコーヒーフィルターに「レモン汁」をつけたらピンク色になりました。次に「す」をつけると黄色になりました。次に「重そう」をつけると、なんと水色になりました。最後は聞いたことがない強いくすりをつけたらキュウリの断面のようになりました。とてもふしぎでした。2番目は「たんさん水をつくろう」でした。ぼくは強めのたんさん水が大好きです。



本当に花の色が変わった!

それをこの教室で作れるのが、楽しみで仕方ありませんでした。

まず、コップに水100ccとクエンさんと重そうを入れて混ぜました。そうしたら、弱いたんさん水ができました。強めのたんさんが好きだけど、弱いたんさんも好きでした。そこにガムシロップとメロンシロップを入れたら、今までないくらいおいしいメロンソーダになりました。家でも作りたいと思ひました。最後の実けんは「われないシャボン玉を作ろう」でした。シャボン玉をきにガムシロップを入れるとわれにくくなるそうです。さつそく、ロビーでシャボン玉をふいてみるとシャボン玉がふわふわとうきました。ここまでではふうです。そのシャボン玉が床につきました。「あ、われるー」と思つたら、なんとわれません。「すごーい!」と思わず変な声で言つてしまいました。われぬ理由は甘い成分でシャボン玉の外側がネバネバになり、シャボン玉がかわきにくくなるからだそうです。家でもじっせんしたいです。初めて知ることばかりでも楽しい教室でした。

お寺で過ごす一日 修行体験

上山田小学校6年 馬場 心陽

「二日お寺の修行」に行つてみて私は、お寺で修行をするという機会があまりないのでいい経験になりました。とくに「お寺」といって坐禅をしている時、いつきようさくをいただくかドキドキしたり「バシッ」と音がするとびっくりしていました。坐禅が終わつた後は足がしびれて痛かったです。お寺の裏の山城までの登山は、冒険しているみたいで楽しかったです。お昼は、竹で流しそうめん。夜はみんなで楽しくカレーを食べました。その後はお墓で、きもだめし、本当に怖かったです。最後の花火はとてもきれいでした。私は一日お寺で修行をしてみて、楽しくみんなと学ぶことができ、6年生最後のいい思い出になりました。



お寺といったら坐禅です



屋代公民館  
雨の上高地散策  
屋代第一分館 北澤 潔

7月8日(土)に屋代公民館・八幡公民館同時実施の上高地散策夏山ハイキングが行われました。  
当日の天気は残念ながら土砂降りの雨でしたが、第一分館有志で明神池まで片道1時間ちよっとの散策をすることにしました。北アルプスを目指して私も何度か歩いたことのある道でしたが、大雨の中歩くのは初めてです。これはこれでまた楽しく思い出に残



雨の明神橋で記念写真

る散策になるだろうと感じました。  
河童橋では見えるはずの穂高の峰々が雨にけむっていて全く見えず、また梓川も茶色の濁流で、いつもの清流のイメージとは違い少々残念でした。山から下りてくる人たちは全身ずぶ濡れ、疲れた足取り。ただその中にも満足そうな顔が見えました。  
明神池に到着し、穂高神社奥社では、帰りの無事を願ってお参りしました。嘉門次小屋の薪の火で焼いた名物の熱々のイワナに舌鼓を打ちながら、持参の昼食を美味しくいただきました。  
帰りは、梓川右岸を戻りました。サルが人を恐れる様子もなく走り回っていて驚き、子ザルはとても可愛らしく、

八幡公民館  
上高地散策  
新宿分館 山崎 潤一

7月に入り毎日、朝な夕なにスマホを開いては天気予報を確認するも、8日の雨マークだけは変わらなず気が重くなっていました。当日も予報通りの雨でしたが、集合場所の市役所で受付をされていた、公民館の皆さんの明るい対応に元気をいただき、バス

そばで見守っている母ザルには逆に怖さも感じました。岳沢湿原では透き通った水面に癒されて河童橋まで帰ってきました。雨もほぼ止み、振り返ると穂高の山々までは見えませんが、雪の残る岳沢の上部まで見ることができました。  
帰りは、大王わさび農場に寄り、揚げたてのわさびコロッケをいただきました。中にわさびの茎が入っていて、食べるとピリツとした辛さが出てきて、今日2回目の舌鼓を打ちました。  
今回初めての参加で同じ地区の皆さんと共に楽しい経験ができたことに感謝しています。

上山田公民館  
上高地行きの願い叶う  
漆原分館 山崎 由紀子

六十数年前、職場の仲間と上高地へ行くため、松本駅の前に宿をとりましたが、夜中に降った雨で、上高地へ行く道路が不通になり行かれませんでした。  
それ以来機会があれば行っ

に乗り込みました。今回は屋代の皆さんと一緒にバスも3台に分乗しての旅でした。私が乗った3号車は、脚に自信があり大正池から歩く予定の皆さんでしたが、上高地が近づくと雨具も激しくなり、車中で雨具を着て下車した方は半分くらいでした。  
歩き始めてすぐの大正池は、強い雨の中でも濁りもなく澄んだ色で心を和ませてくれました。「晴れていれば池の向こうに焼岳が見えるんですよ」の説明にその姿を思い浮かべ、田代池へと進みました。田代池も澄んだ流れで晴れていればひと休みしたくなる所でした。歩き始めて20分、雨中の散策にも余裕が出てきて、道端の白い可憐な花を目にし、耳にする鳥の声とともに高原の雰囲気を感じる事ができました。ウエストーン碑の前で数人の集合写真に納まった後、やっと巡り会えたあずまやでお弁当。雨を凌いでのお握りもまた一味違った美味しさがありませんでした。河童橋も近くなり、来た道を振り返ると梓川の向こうに近くの峰々の稜線が重なり、水墨画のような幽玄の世界を見せてくれました。晴れた日では味わえ



雨の上高地も魅力的でした!

ない今日一番の贈り物でした。  
今回初めての参加でしたが、公民館の皆さんや救護班として同行していただいた千曲市トレッキング同好会の皆さんのおかげで、思い出に残る楽しい旅をすることができました。ありがとうございます。



ウエストーン碑の前で

てみたいと思っていたところ、公民館で企画していただき河童橋付近での散策のコースも加えてあり大変有難かったです。

7月22日(土)、当日は好天に恵まれ、薄日がさすくらいで暑くもなくハイキング日和でした。

大正池のところで全員が下車し、写真を撮り、散策コースの8人はまたバスに乗り、バスターミナルで下車、河童橋のところまで自由行動になりました。

私は、穂高の雄大な姿に圧倒され見入ってしまいました。残雪がもつとあるかと思いましたが、地球の温暖化によるものなのか、ちよつと残念。山崎章子さんと行動を共にし河童橋を渡って、梓川の右岸へ、ウエストーン碑まで歩くことにしました。木立の中



気持ちのいい一日でした

を、道の両側の草花を鑑賞しながら歩きました。ウエストーン碑は、ちよつと奥まった岩壁のところ、レリーフがはめ込んでありました。

帰りは、川沿いの道を通り川原に下り、冷たい水に手を入れて水と戯れました。浅瀬を下る水音、ざあざあと水しぶきを立てて水が下る様子を見てみると、まるで心が洗われるようでした。木立の中の木造のベンチでゆっくりお昼を食べ、時間の経つのも忘れて過ごしました。

あの雄大な穂高の峰々、梓川の浅瀬を下る水しぶきの音などを目と耳にしつかり残り、帰路に着きました。楽しい一日でした。

### 成人式実行委員会開催

令和6年1月7日(日)に千曲市では20歳を対象に成人式を開催します。

8月30日(水)、稲荷山公民館において、第1回千曲市成人式実行委員会を開催しました。各公民館から選出された実行委員が、正副委員長を決定し、成人式当日の運営や、冊子編集等の役割分担を決めました。

それぞれが、仕事や学業に忙しい中ですが、実行委員の皆さんには、成人式が参加するみんなの良い思い出になるような企画を立て、当日の運営も担っていただきます。



良い成人式になるよう頑張ります

### 第30回 戸倉文化祭

●会場● 戸倉創造館

開催日程

11月25日(土)

展示発表 ..... 11:00~16:00

11月26日(日)

展示発表 ..... 9:00~15:30  
 舞台芸能 ..... 9:30~14:30  
 (開場 9:00)



問合せ先 戸倉創造館 ☎026-275-6700

### 第21回 更埴地区文化祭

●会場● 信州の幸あんずホール (更埴文化会館)

開催日程

11月11日(土)

展示発表 ..... 13:00~16:30  
 ※土曜日は午後のみ

11月12日(日)

展示発表 ..... 9:00~16:00  
 舞台発表 ..... 10:00~16:00  
 謡曲の部 ..... 9:30~13:00  
 茶道の部 ..... 9:30~15:00

問合せ先 屋代公民館 ☎026-272-0234  
 埴生公民館 ☎026-272-0055  
 稲荷山公民館 ☎026-272-1009  
 八幡公民館 ☎026-272-1076

### 第52回 上山田文化祭

●会場● 上山田文化会館

開催日程

11月4日(土)

展示発表 ..... 9:00~17:00  
 ふれあいのど自慢 ..... 15:00~17:30

11月5日(日)

展示発表 ..... 9:00~15:00  
 囲碁大会(千曲市総合観光会館) ..... 9:00~16:00  
 青空市 ..... 10:00~14:00  
 舞台発表 ..... 10:30~

図書交換会を5日(日)に開催します。

ご自宅で不要になった本がありましたら、この機会にご持参ください。

※詳細は上山田公民館へお問い合わせください。

問合せ先 上山田公民館 ☎026-276-5842

# サークル紹介

## スポーツウエルネス吹矢

屋代公民館 柳町 淳

「スポーツウエルネス吹矢 信州ちくま支部」は、令和2年10月に支部を立ち上げ、現在会員11名で、毎週火曜日午後7時から屋代公民館で練習を行っています。県大会もあり、昨年、当支部は優勝・3位・4位と上位に入賞しました。

「スポーツ吹矢」を簡単に紹介します。8材、10材先の的に向かって、130発の筒に矢を入れ、息を吹きかけ飛ばします。弓道のような的で、中心から外側に向かって7点・5点・3点・1点です。

1ラウンドは矢を5本使い刺さった点数の合計で、6ラウンドを1ゲームとし、合計点で競います。満点は210点で、弓道やアーチェリーと同じで、「心」「技」「体」が一つでも乱れると中心の7点には当たりません。腹式呼吸をすることにより、



一本の矢に魂を込めて

心を落ち着かせ、精神統一ができます。健康にとても良く、老若男女誰でもできるスポーツです。今年の県大会も優勝・2位と好成績でした。「スポーツウエルネス吹矢」に興味のある方は、屋代公民館にお問い合わせください。お待ちしております。

## 上山田菊愛好会

上山田公民館 市川 由男

何年前かは「菊の会」の名前で、会員は数十名と大勢の方々が活発に活動されていたと聞いています。

現在は大幅縮小となり、男性2名、女性4名で「愛好会」として活動しています。

皆さんは、ペテランの方々ですが、私は今シーズンで3年目の初心者で初歩的なことから教えてもらっています。

3月に土と肥料を手配、各人それぞれに苗を育て、5月に苗の交換会も行い、その後成長した苗をポットから5号鉢、そして9号鉢へ順次移植し、肥料と水をやり、防虫剤を与え、日光にしっかり当て成長させていきます。

「水も肥料も適時適量を与えてまた病気になるないように注意して育てる」これは人間を育てるのと同じですね。手間は掛かりますが植物は正直です。秋にはちゃんと花が咲きます。菊は国花にもなっていて「強く」「長持ち」する花です。育てるには日々信州言葉の「ずく」が必要です。



菊愛好会文化祭出展風景

今迄朝顔を楽しむ程度でしたが、自分が少し「まめ」になったような気がします。菊作りに挑戦してみたい方の入会をお待ちしています。

## わがまちの白樫

### 「小谷の郷から」雷のあと、虫の音を聴きながら

八幡郡区 永田 義明

8月もお盆が明けると八幡の里は9月14日の武水別神社八幡宮の仲秋祭「トントン」の準備が本格化します。殊に神楽舞は当日の花形であることからその練習には熱が入ります。このトントンを初めて見た知り合いが「モノクロの祭り」だと表現しました。的を射た表現だと感心したものです。

さて、当郡集落の入口である、八幡公民館から来る道路「大道」と地元では呼ばれている道の三叉路南側に「男女離石」と書いて「なめりいし」と呼ばれるさざれ石状の1層ほどの石があります。この石の説明板には「養和元年6月、



男女離石

旭将軍といわれた木曾義仲が、源氏の氏神として崇敬する更級郡小谷庄八幡宮に、戦勝祈願と勝利後の社領寄進を誓願している。たまたま境内は女人禁制で、義仲は巴御前と別れて参拝した。此処からは八幡宮という大きな境石があり、男女離石と言い伝えられていた。不思議なことに男女の別離、離婚に転化して、花嫁行列がここを通ると、花嫁は忽然として姿を消すこと再三におよび、以後は行列も新婚の夫婦も男女離石前の通行を避けたといわれる。…という内容が書かれています。

また、これと関連して当郡集落の西側から突き出た矢崎山の南麓に「本八幡」と言われる社（小祠）があります。この説明板には「本八幡は98年、この地（小谷の郷）に、京都の石清水八幡宮の分霊が祀られた。それより前、武水別神社が86年無位から一躍して従二位の神位を得て、翌年には官社になっていく。これは極めて破格の待遇を受けた神社であった。この頃、武水別神社は八幡宮の前身であったのか、または全く別の所にあったのか判然としない。郡のこの地は多分郡衛（郡の役所）が

あった所であり、東山道信濃路は麻績から羽尾・上町を経て善光寺至る国道上の要地であった。…」という内容が書かれています。

この中で特に男女離石説明板中の「勝利後の社領寄進を誓願」の部分は私的に気になるところであります。当時の木曾義仲は旭将軍といわれ、打倒平家を目指した源氏の大將であり、源氏の最有力な武将です。その武将の木曾義仲が社領を寄進したのです。現在の「武水別神社八幡宮」は、その位置、規模共にこれにふさわしいものではないでしょうか。

郷土の歴史は、著名な遺跡だけでなく、人知れない遺跡も重要だと思います。くれぐれも忘れ去られないようにしたいものです。

以上、私見の一部を書かせていただきましたが、冒頭で申し上げました仲秋祭の「トントン」、新嘗祭の「大頭祭」など武水別神社八幡宮はお祭の宝庫であり、貴重な聖地であります。

この災害も少なく、水もおいしい、歴史ある地に生を受けたことに感謝したいと思います。



郡区の本八幡



# 大菊作り四十年

新田 澁谷 孝

私の妻は40数年前、20鉢程大菊作りを行い、自分の出来栄を自慢していました。やがて、8年間大菊作りを励んでいた妻も、勤めと3人の子どもの養育で手が回らなくなり止めてしまい何品種もの菊を廃棄すると言いますので、勿体ないと思います。それが俺が続けてやる」と言ったのが、大菊作り40年の始まりです。当初、妻は「花作りに全く興味がないお父さんにできる訳がない」の苦言でした。しかし一度口に出したら後に引けません。大菊作りは1本の花木から成育させる、三本立、七本立があります。高さが115、165に作る国華園の規約があります。また、60に作るダルマ作りと30に作る福助作りがあります。菊花は神秘的でよくこのような花輪を付けるものだと想いに耽るものです。

さて私は当初「培養土」作りは全く分かりませんでした。

畑の土、河原砂、山の枯葉を混合して作るのですが妻のよくな菊鉢に成りません。肥料も色々工夫しましたが全くダメでした。そして7、8年経て「まあまあ」と思う出来映えに成りました。しかし武水別神社境内で行われている「千曲大菊花展」を鑑賞し、大きな落胆を受けました。1、000鉢程の出展菊と私の菊を比較すると、私のは花葉が小さく茎は細く線香のようなものでした。当時よりある「千曲菊愛好会」には50名の会員の方向があり、以前より入会を勧められていましたが「自己流でやる」と決め、他人のアドバイスには全く耳を貸しませんでした。私の菊作りは「井の中の蛙」だったのです。しかし、その後同会に入会し多くの方々のご指導をいただき、数年後、「菊花展」で「長野県知事賞」を受賞し、その後も数回受賞しました。私は毎年大菊花作りは100鉢行います。が納得出来る鉢は数鉢のみです。

一、「苗作り」前年の鉢の冬至芽を4月末に挿芽します。新芽は凍みを防止し、消毒、液肥、固形肥で育成します。新芽を13の長さに斜めにカットして、3時間水あげをしておきます。挿床はスチロポール等の箱に排水穴を開け、細粒の鹿沼土7割、パーキュライト3割で混合し、4日前より十分水を与え馴染ませておきます。3、5四方に1本の割合で挿芽を行い、苗床は無風の日陰に置き2日間施水しないで保管します。苗が少し萎えたら施水します。7、10日後、半日影の外に出しこの時点より朝夕施水を十分行い、3日間隔で1、000倍の液肥を施します。3週間後着根を確認し、3号ポットに移植し固形肥、液肥で育成します。背丈15時に中心の芯を欠きます。これを摘芯と言います。高さの延びが鈍くなり、葉のワキ芽が何本も出ます。この芽を3、7本選び育てます。作物は「苗半作」と言い、菊もその後の育成は苗で決まります。

二、「定植」挿芽後55日目に9号鉢に定植します。私は毎年6月25日が目安です。培養土は櫻の葉の腐葉土、山土、軽石、パーライト、くん炭の混合土を造ります。今年は三本立てが80鉢、七本立てが20鉢、小菊50鉢、福助作り100鉢、寄植10鉢の合計260鉢に成りました。特に七本立て作りは私の得意とする鉢で1本の苗より真中に1本、周囲に6本立てます。技術の要る作りで完成鉢は見事なものです。施肥は半月毎に固形肥を与え8月末で止肥にします。液肥は3日に1回、消毒は10日に1度ずつ行います。

三、「開花」9月10日頃より多くの蕾が発生し、選定が難しいです。やがて10月末に開花し、輪付けを行い完成です。挿芽から開花まで半年を要し、この間1日も休むこと無く作業を行います。菊作りは手間が掛かりますが丹精込めて育てた菊が咲いた時の喜びは一入です。また育てる過程も楽しいものです。

近年高齢化により会員が減少し後継者の育成が課題になっていきます。私は8年前より植生小学校の6年生へ菊作りの指導に行かせていただいております。大菊三本立作りに初めて挑む子どもたちは大変ですが、真摯に取り組む姿に大きな感動を受けます。また、教室内の学習の他に課外活動をされる担任の先生方の努力には心を打たれます。

今年は11月中旬の植生小学校150周年の式典に間に合わせようと頑張っています。今まで指導させていただいた子どもたちが1人でも多く将来菊作りに携わっていただければと願うものです。

今年も10月25日(水)より「千曲大菊花展」が武水別神社で開催され、千曲菊愛好会会員の精魂込めた500鉢の菊花が出展されます。私も三本立て12鉢花壇と七本立て6鉢花壇を出品します。

菊作りに挑戦してみようという方がいればご連絡ください。また、10月末より自宅において16回目となる「孝菊祭」を開催します。多くの皆様のお出掛けをお待ちしています。



それぞれに咲き誇る菊 カラーでなく残念です!

※「館報ちくま」及び「もっと知りたいふるさと」は千曲市ホームページでご覧になれます。

# もっと知りたいふるさと

## 94 宮坂静生先生の句碑 龍洞院に建立

家さんです。

また、私の母方の曾祖父とも俳句を通じて親交があり、曾祖父の葬儀の弔辞では、

木曾谷の花を率ゐてみまかりし

と、曾祖父への惜別の句を詠んでくださいました。そのような有難いご縁もあります。去る5月21日に無事、除幕式を迎えました。

宮坂先生はこれまでたくさん句が選定されました。平成9年の9月、長野県高山村の山田牧場にて、霧雨の中を5、6羽の渡り鳥が飛び立つ様子を見て生まれた句です。「はらわた」と聞けば、「は

らわたの熱きを待み鳥渡る

この句は、松本市出身の俳人、現信州大学名誉教授の宮坂静生先生が、自身が主宰して刊行している俳句誌「岳」にて詠んだ句であります。宮坂先生は、お父様が稲荷山のご出身であり、龍洞院のお檀

家さんです。

また、私の母方の曾祖父とも俳句を通じて親交があり、曾祖父の葬儀の弔辞では、

木曾谷の花を率ゐてみまかりし

と、曾祖父への惜別の句を詠んでくださいました。そのような有難いご縁もあります。去る5月21日に無事、除幕式を迎えました。

宮坂先生はこれまでたくさん句が選定されました。平成9年の9月、長野県高山村の山田牧場にて、霧雨の中を5、6羽の渡り鳥が飛び立つ様子を見て生まれた句です。「はらわた」と聞けば、「は

らわたの熱きを待み鳥渡る

この句は、松本市出身の俳人、現信州大学名誉教授の宮坂静生先生が、自身が主宰して刊行している俳句誌「岳」にて詠んだ句であります。宮坂先生は、お父様が稲荷山のご出身であり、龍洞院のお檀

家さんです。

また、私の母方の曾祖父とも俳句を通じて親交があり、曾祖父の葬儀の弔辞では、

木曾谷の花を率ゐてみまかりし

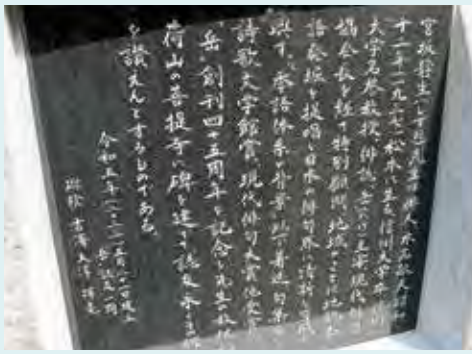
と、曾祖父への惜別の句を詠んでくださいました。そのような有難いご縁もあります。去る5月21日に無事、除幕式を迎えました。

宮坂先生はこれまでたくさん句が選定されました。平成9年の9月、長野県高山村の山田牧場にて、霧雨の中を5、6羽の渡り鳥が飛び立つ様子を見て生まれた句です。「はらわた」と聞けば、「は

らわたの熱きを待み鳥渡る



句碑 表



句碑 裏

らわたが煮えくりかえる」という熟語を思い浮かべる方も多いでしょう。人間が抱いた激しい怒りをこらえることができないという意味で使われています。

この句の場合は、渡り鳥の内部（はらわた）に貯め込んだエネルギーを燃焼させながら、各地を旅しているという「生き様」が感じられます。渡り鳥が飛び立つ瞬間、まず1羽が飛翔し、青空に大きく翼を広げ、それに促されるように別の鳥たちが飛び立ち、編隊をなして次の目的地へ向かいます。その間、目的地までは何千キロという長い道のりですが、迷うこともなく、生きるため、命を繋いでいくためにただひたすらに羽を広げ飛んでいます。そんな鳥たちの生命力、命の燃焼を宮坂先生はこの一句に詰め込んだのではないかと思えます。

俳句の言葉に「而今」という言葉があります。今、この瞬間を生きているという意味です。ここ数年はコロナ禍で先が見えない時期が続き、各地で相次ぐ戦争、北朝鮮によるミサイル発射、自然災害等、未来への不安が募る世の中になっています。

### 編集後記

ですが、過去や未来に憂いていても仕方がありません。今できることは、この1日1日を懸命に生きる、まさに渡り鳥のような「あるがまま」を生きているという心の持ちようが大事になってくるのではないかと思います。

思いを馳せながら、境内を散策していただければと思います。また、句碑の石材には辰野町産の安山岩、碑版にはインド産の黒御影石が使用されています。碑は、半永久的に残るもので、魂の一部がそこに生き続けるとの考えに根付くものであります。

今回建立された宮坂先生の句碑とともに、皆様の抛り所となれるよう、僧侶として精進して参ります。

（俳句誌「岳」2023年5月号参照）

龍洞院 南澤 享全

間もなく二十四節気の寒露を迎え、いよいよ秋の深まりを感じる頃だ。

それにしても、今年の夏の暑さは異常だった。国連のグレース事務総長が「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と警告したらしい。気温が50度を超えた国もあったというから驚く。それまでコロナ禍で不要不急の外出を控えていたが、今度は暑さで外出ができなくなってしまう。

今月の特集「夏休みの思い出」はそんな夏疲れを思いきり吹き飛ばしてくれた。各館でいろいろな行事が催され、たくさん子どもたちが暑さ

に負けず明るく元気に活動している様子が掲載されているからだ。読んでいてこちらも元気をもらった。

上山田地区では上山田育成会と公民館が「お寺で過ごそう一日修行体験」を計画したところ、募集人員をはるかに超える申し込みがあったそうだ。人気の秘密は、親や子どもにとって学校や家庭ではできない体験ができる点ではないだろうか。また、子どもは人と人との触れ合いを求めているのだと思う。

そう考えると公民館の果たす役割は大きい。子どもの成長のためにもこれからの活動に期待したい。地域社会全体で子育てができればと思う。